

信 毎 歌 壇

小島 なお 選

無花果のタルト美味しい わたしたち世界の複雑さも愛してる (松本市) 飛 和
 小学校百五十周年の人文字に尻らと手を振る青のドローンに (長野市) 富崎 久子
 九十の母とファミレス訪えば音無く走る配膳ロボット (伊那市) 後藤 敦子
 「世界」読み「文藝春秋」読む夫は卒寿にて死をもとせせず (佐久市) 白田幸多子
 手を出せばいやいやをする乳飲み子は選ぶ権利を持ち合わせてる (伊那市) 小松美佐子
 南瓜切り指を傷つけ久しぶりふき出す血の赤見つめていたり (長野市) 伊藤 恵子
 病院の廊下で怒鳴る男いてその妻はただ黙してたり (佐久市) 水間喜美子
 遠き日にサボテンくれし人逝けり今も元気に我が家で育つ (飯綱町) 坂井 容子
 泣きながら夫が厨に料理するタルタルソースの玉ねぎが好き (長野市) 原田りえ子
 マロニエの木蔭に母はうす紅の嬰兒の口にスプーン運ぶ (佐久市) 篠原 敬子

第一首、季節を味わう単純な幸福と、複雑な世界を生きる困難と。どちらも私を私たらしめるかけがえのないものだ。第二首、上空から人文字を撮影する場面。150年の年月の先端をいま軽やかに飛翔するドローン。第三首、人の代わりにスマートに働くロボット。母と私とロボットの不思議な邂逅。第四首、いつまでも知的好奇心を失わない夫。生きるエネルギーに満ちている。こちらも90歳。

選評

米川 千嘉子 選

吾子の友訪ね来るのは嬉しきと吾子の友たちは吾の友だち (千曲市) 中村 美樹
 文化祭小さき形のチューバ吹く孫の音色を一心に聴く (小海町) 依田 久代
 子に連れられ入るおしゃやなカフェテリア食後にさがす爪楊枝かな (長野市) 原田りえ子
 時流れ空席目立つ国連にゼレンスキーの生声むなし (松本市) 中村 博穂
 園児らに慕われて励む元市議の政治を離れし極上笑顔 (佐久市) 篠原 敬子
 通らぬ間に夏そば刈られその跡に秋そば既に十七ンチなり (山形村) 上條ひろ子
 数多咲く花を残してホームへと移りしひとのかはちやの絵手紙 (麻績村) 小山みよ子
 品出しの店員の手は素早いが我が欲しきものまだ出ては来ぬ (長野市) 宮沢 信博
 父母を老いと思ひたくなき吾子ならむ「敬老の日」の電話孫より (伊那市) 堀米 好美
 紫蘇の実を煮る香厨に立ち込めて老老介護の時の過ぎゆく (豊丘村) はやしのもりんど

第一首、作者もその友のことをよく知っているのだ。「吾子の友だちは吾の友だち」の心情、じつに共感できて楽しい。第二首、チューバにはいくつもの大きさや音域がある。「小さき形」で一首がとも印象的に。第三首、なるほど、の一首。爪楊枝という語感からしてミスマッチ？ 第四首、昨年の国連総会ではビデオメッセージながら熱い拍手が送られた。「生声」は昨年との対比を鋭く示す。

選評

小池 光 選

母求め喉潰れるやに泣く孫は桑田佳祐のやうになれるや (須坂市) 東島 雄二
 大丈夫なんとなかなるよと友に言う自分自身に言い聞かせながら (佐久市) 高橋衣里子
 空を飛ばず海をえらびしペンギンは時どき空を見上げて鳴けり (長野市) 西村満知子
 何となくさみしき今日はたれにやるあてないけれど布草履編む (長野市) せきたつお
 オホーツクを走る二輪の急行に車内販売ありにし昭和 (長野市) 原田 浩生
 歓声を上げ浴場に入り来る乙女等は皆フロンズ像の如 (須坂市) 高橋 都子
 便箋で手紙書いたの何時だろう郵便受けに返事待った日 (松本市) 興 絹枝
 球根に猛毒のあるコルチカム濃きくれないの花はうつくし (松本市) 倉科美恵子
 年上の友達皆先生と思つて暮らす初老の私 (松本市) 清沢 和江
 福祉バスその日退職の運転手に駄菓子袋をわたして下車す (飯山市) 市村紀久子

今回はいい歌が多かった。第一首、痛快な歌。サザンの桑田佳祐になれるかも、と希望を抱く。おもしろい孫への期待だ。第二首、人を励ますときは、自分をも励ましている。これは人間の真理だろう。大丈夫、ということばはとても大切に思う。第三首、ペンギンというふしぎな鳥。ときどき空を見上げて鳴く。作者の想像力が楽しく、またちょっと悲しい。第四首、この布草履、履いてみたい。

選評

佳作

佳作

佳作